

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4200
No 2101	補助金名 黒船祭執行会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称 下田市負担金補助及交付金に関する規則			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	黒船祭執行会	事務局	観光交流課 観光戦略係
補助金の性質	<input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助		
補助開始年度	9	補助終期設定	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	18,000,000	3,000,000	21,000,000
29	12,000,000	6,000,000	18,000,000
28	19,000,000	0	19,000,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	17,000,000	0	17,000,000
27	17,000,000	0	17,000,000
26	16,900,000	0	16,900,000
25	14,500,000	0	14,500,000
24	23,200,000	0	23,200,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	昭和9年に開港80周年事業として、開港に尽力された先人を顕彰するため、開始された。		
目的・内容	②	開港の歴史を記念し、先駆者を顕彰し、併せて記念イベントを実施し、下田の発展に寄与するため。	10
国・県の補助の有無	無し(第74回から県補助打ち切り)		
公益性の所在	①	日米交流の絆としての祭典と捉えているので、公益性については高評価している。	10
市が補助すべき理由	②	日米交流の原点であり、下田市の3大イベントでもあるため、補助することが責務となっている。	10
代替手段との比較			
補助金の主な使途	③	式典費 行事費	10
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	日本最大の観光キャンペーンであるDCキャンペーンの静岡県開催が決定。月は4月～6月でH30がプレ、H31が本番、H32がアフターの3か年で実施。黒船祭が静岡県のトップイベント(最重要点)の1つとして扱われる。平成30年度では海上花火大会の強化に加え、土曜日には新たに手筒花火を実施。※DC本番年のH31は第80回の記念大会でもある。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	問題なし	10
成果・費用対効果	④	下田開港記念事業として、下田市が日米親善、国際交流の意義は大きい。宿泊客の増加など観光振興に成果を上げることが、大きな目的の一つであり、黒船祭に期待を寄せられることは大きい。PRの仕方について課題もある。「国際交流」と「観光」に、切り分けて考えるべきという意見もある。	10
同一団体への他の補助金の有無	なし		
廃止の見込み、廃止の影響	約1/3(かつては1/2)を市民等からの寄附に頼っているが、年々目減りしている。補助金の廃止は黒船祭の存続に係わる。		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4200
No 2102	補助金名 下田市夏期海岸対策協議会補助金		
根拠法 下田市海水浴場に関する条例			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	下田市夏期海岸対策協議会	事務局	観光交流課 観光戦略係
補助金の性質	<input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助		
補助開始年度	43	補助終期設定	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	7,000,000	5,000,000	12,000,000
29	7,000,000	5,000,000	12,000,000
28	11,000,000	0	11,000,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	11,000,000	0	11,000,000
27	11,000,000	0	11,000,000
26	12,000,000	0	12,000,000
25	10,000,000	0	10,000,000
24	11,400,000	0	11,400,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	観光振興のため 風紀の乱れ、出店者間でのトラブル頻発により、昭和43年より浜地を一括して占用し、支部が管理する現行の体制となった。	
目的・内容	② 海水浴場等による水難の未然防止及び水難者の捜索救護並びに海水浴場等の管理運営に必要な対策を実施することを目的とする。	10
国・県の補助の有無	無し	
公益性の所在	① 観光立市下田として、海水浴場の安全確保・環境向上のための役割が責務となっている。	10
市が補助すべき理由	② 夏期対支部の独自収入に頼り、費用の多くを賄っているが、行政の責務である以上、来遊客の安全性等を確保する使命があるため。	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途	③ 事業費(監視費、支部事業費、清掃業務費等)	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 各事業費の積み上げで積算している。新たに海水浴場の開設時間告知看板等の新設を予定している。その他、世界一の海づくり基金を充当し、ライフセーバー設置期間の延長を予定。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③ 問題なし	10
成果・費用対効果	④ ライフセーバー等の活動により、水難事故などの防止に大きな役割を果たしている。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し	
廃止の見込み、廃止の影響	下田市海水浴場に関する条例が市の責務であり、廃止した場合は、市で直営管理せざるを得ない。今後、各支部で市補助金以外の運営財源が確保できず、直営運営となれば、多額の費用負担を強いられることが予想される。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2103	補助金名 下田市観光協会補助金		
根拠法		一般社団法人	
交付要綱等名称		下田市負担金補助及交付金に関する規則	
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3 観光	
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	(一社)下田市観光協会	事務局	(一社)下田市観光協会
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	32,000,000	0	32,000,000
29	31,000,000	0	31,000,000
28	32,000,000	0	32,000,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	32,000,000	0	32,000,000
27	31,740,000	0	31,740,000
26	28,740,000	0	28,740,000
25	25,400,000	0	25,400,000
24	23,000,000	0	23,000,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	観光振興組織設立による		
目的・内容	②	下田市観光協会の運営と活動を支援し、イベントの開催や各種宣伝を通じて観光客の誘客に努めるとともに観光の振興を図る	10
国・県の補助の有無	無し		
公益性の所在	①	観光業務の担い手として、PR・誘客活動など行政とともに活動している	10
市が補助すべき理由	②	精通性、機動性を考えると、絶対的な必要性がある	10
代替手段との比較			
補助金の主な使途	③	宣伝事業費、事業費、運営費	10
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	例年、ゼロベースの積み上げによる積算をしてる。H30年からH32の4月～6月で静岡DCが開催され、あじさい祭、きんめ祭りの強化・ブラッシュアップを実施。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	問題なし	10
成果・費用対効果	④	イベントの開催や誘客キャンペーン等の実施により、来遊客の減少に一定の歯止め効果をあげている。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し		
廃止の見込み、廃止の影響	下田市のPR活動が停止し、各種イベントが実施できなくなることで、さらなる観光客が減少する悪循環が予想される。		

○評価点

①公益性 10

②必要性 10

③適格性 10

④効果 10

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2105	補助金名 花火大会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称 下田市負担金補助及交付金に関する規則			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3 観光	
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	伊豆白浜観光協会 伝統河内花火保存会 夏季花		事務局 各団体
補助金の性質	<input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	1,185,000	0	1,185,000
29	1,085,000	0	1,085,000
28	900,000	0	900,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	900,000	0	900,000
27	900,000	0	900,000
26	985,000	0	985,000
25	985,000	0	985,000
24	362,000	623,000	985,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	観光振興のため	
目的・内容	② 観光振興のため	9
国・県の補助の有無	無し	
公益性の所在	① 地域振興のみならず、観光客誘客のための花火打ち上げということで、公益性はある	9
市が補助すべき理由	② 実施主体の予算額減少により、補助金の比重が増加している 夏のイベントとして、集客につなげられる要素はあると認識している	8
代替手段との比較		
補助金の主な使途	③ 行事費(花火打ち上げ費用)	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 白浜海の祭典花火大会 50千円、下田納涼花火大会 1,000千円、河内手筒花火大会135千円	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③ 問題なし	10
成果・費用対効果	④ 市外からの来遊客の増加については未知数であるが、海水浴以外の+アルファーとしての花火大会による顧客満足度向上につなげられる。	8
同一団体への他の補助金の有無	無し	
廃止の見込み、廃止の影響	伝統行事の継承が難しくなる	

○評価点

①公益性	9	②必要性	8.5	③適格性	10	④効果	8
------	---	------	-----	------	----	-----	---

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係			記載者職・氏名 大原清志		
新規・継続	継続	予算事業コード	4250		
No 2106	補助金名 ボランティアガイド協会補助金				
根拠法		任意団体			
交付要綱等名称		下田市負担金補助及交付金に関する規則			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光		
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。			
業務作戦書の位置付け	戦略の核				
	2桁コード				
補助対象者	ボランティアガイド協会補助金		事務局	下田ボランティアガイド協会	
補助金の性質	<input checked="" type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助				
補助開始年度	補助終期設定	H 13	補助率	%	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	90,000	0	90,000
29	90,000	0	90,000
28	90,000	0	90,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	90,000	0	90,000
27	90,000	0	90,000
26	90,000	0	90,000
25	90,000	0	90,000
24	180,000	0	180,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	下田市教育委員会「ガイド養成講座」修了者等により、平成13年度にボランティアガイド協会が設立されたことによる。		
目的・内容	②	ボランティアガイド協会の活動支援・育成をし、観光客の受け入れ態勢の整備を図り、訪れる人とのふれあいや交流を促進する。	10
国・県の補助の有無	無し		
公益性の所在	①	ボランティアとしての活動だが、観光に必要不可欠となっている。	10
市が補助すべき理由	②	一部有料化が始まっており、独立運営ができると思われる。観光の最前線で活動している団体であり、今後もその役割は大きい	10
代替手段との比較			
補助金の主な使途	③	研修費、事務費等	10
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	平成30年にはフラワー都市交流下田市総会が開催され、その際の案内役をボランティアガイド協会が担うことになるが、準備経費についてはフラワー総会で負担するため、通常の補助金額とする。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	補助金以上の繰越金があるが、高齢化が進み新規会員が増えていない状況でガイド養成講座、研修費等の支援をしていった。H26より家賃支払い発生。	8
成果・費用対効果	④	利用者には大変好評であり、下田の観光メニューの目玉の一つとなっているが、ガイド減少に伴い、案内数も減少している H23年2月 案内10万人達成 協会の運営・活動に影響あるが、18年度10月より予約客のみ有料化(一人100円)19年度からも同様に一部有料化で実施している。H26より値上がされた。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し		
廃止の見込み、廃止の影響	自主財源確保により独自運営が可能であると判断している。		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	9.33	④効果	10
------	----	------	----	------	------	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2107	補助金名 伊豆下田地区教育旅行協議会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称 下田市負担金及交付金に関する規則			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	伊豆下田地区教育旅行協議会	事務局	下田市 観光交流課
補助金の性質	<input checked="" type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	35,000	0	35,000
29	35,000	0	35,000
28	35,000	0	35,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	415,000	0	415,000
27	35,000	0	35,000
26	40,000	0	40,000
25	40,000	0	40,000
24	40,000	0	40,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	須崎地区で定着していた体験型修学旅行を他地区(田牛・白浜・外浦)へ広めるため	
目的・内容	② 小中学生の修学旅行及び体験学習等の教育旅行誘致推進	10
国・県の補助の有無	終了 国 2,185千円 食と地域の交流促進対策交付金事業(H23,H24) 終了 県 180千円 子ども農山漁村交流プロジェクト支援事業(H23) ※直接伊豆下田地区教育旅行協議会へ補助	
公益性の所在	① 現在4地区の協議会であるが、さらに広域組織になれば公益性はあがる	10
市が補助すべき理由	② 共同宣伝事業や、大きな団体の受入に備えるためにも、協議会の必要性は高い	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途	③ 通年はHP維持管理費に当てている。H28年度決算については漁船体験に係る海事事務所への申請書類作成等に係る費用が生じたもの。	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 最低限のホームページ経費分を計上している。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③ 問題なし	10
成果・費用対効果	④ 市全体で取り組んでいるという姿勢が他地域に安心感を与え、中京地区及び神奈川地区の教育旅行生を増やしてきた。 また静岡県東部地域においても誘致活動を行い、近隣地域からの受け入れも増加している。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し	
廃止の見込み、廃止の影響	下田市全体として、キャラバン等のPR活動が出来なくなり、旅行数の減少が予想される。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4253
No 2108	補助金名 自然体験活動推進協議会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称 下田市負担金及交付金に関する規則			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	下田市自然体験活動推進協議会	事務局	観光交流課 観光戦略係
補助金の性質	<input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	1,700,000	4,000,000	5,700,000
29	0	4,000,000	4,000,000
28	4,000,000	0	4,000,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	4,000,000	0	4,000,000
27	3,300,000	2,700,000	6,000,000
26	900,000	0	900,000
25	300,000	0	300,000
24	300,000	0	300,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	一季集中型の観光から四季型・通年型観光地への転換を目指し、体験型観光メニューの充実を図るため。また、開港150周年記念事業より継続している。	
目的・内容	② 自然を活かした観光の掘り起こし。そして自然をテーマとしたガイド組織を設立し、案内を通して訪れる人とのふれあいや交流を促進するため。平成25年度は、「世界一の海づくりプロジェクト」事業推進に合わせ、大幅な組織改変を予定している。また、イベント事業としてシートウーサミット実施を目指す。	10
国・県の補助の有無	都市農村共生・対流交付金事業(国庫補助) H25 4,100千円 H26 4,529千円、H27市町村振興協会補助金 3,500千円、H27地域住民生活等緊急支援事業分(国補助金) 2,800千円	
公益性の所在	① 観光誘致を柱として、地域の子どもの自然体験教育や自然環境保護にも関連している。また、下田市観光まちづくり推進計画に沿った事業を実施予定であるため、十分な公益性がある。	10
市が補助すべき理由	② 協議会があることにより、それぞれのボランティア的な個別の活動を連携させることは必要であり、協議会の活動が教育旅行の誘致、伊豆半島ジオパーク構想の推進に繋がっていく。観光基本計画に掲げる「世界一の海づくり事業」プロジェクトの実施主体であることから補助は必要	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途	③ マリン講座、モンベル登録、自然講座、SUP講座、モニターツアー、ジオ関係、海議開催、体験メニューのプロモーション。	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 積み上げにより算出。平成30年度よりオリンピック経費関係を除いた。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③ 問題なし	10
成果・費用対効果	④ 本活動により育成した指導者が教育旅行の体験指導を行うなど、他の観光事業にも関わりを持つようになってきている。ニューツーリズム、グリーンツーリズム等自然体験型の観光の需要は今後益々増えていく。	10
同一団体への他の補助金の有無	なし	
廃止の見込み、廃止の影響	多様化する観光需要に対応が出来ず、下田の特性を活かしたまちづくりが困難となる。 ※現在、枠組み等の再構築を検討中	

○評価点

①公益性	10
------	----

②必要性	10
------	----

③適格性	10
------	----

④効果	10
-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4350
No 2109	補助金名 海岸砂防柵設置事業補助金		
根拠法	下田市海水浴場整備事業補助金交付要綱		
交付要綱等名称	下田市海水浴場整備事業補助金交付要綱		
総合計画の位置付け	施策体系	4-3-1	防災
	基本目標	防災意識が高く、災害に強いまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	長田区 原田区 外浦区	事務局	下田市 観光交流課
補助金の性質	<input checked="" type="checkbox"/> 運営費的補助 <input checked="" type="checkbox"/> 活動費的補助 <input checked="" type="checkbox"/> 施策的補助 <input checked="" type="checkbox"/> 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	415,000	0	415,000
29	415,000	0	415,000
28	415,000	0	415,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	415,000	0	415,000
27	255,000	0	255,000
26	274,000	0	274,000
25	120,000	0	120,000
24	120,000	0	120,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	砂飛散のため、道路、家屋等に被害が出ていた。そのため地域住民が中心となり対策を施し、市としてもその費用の一部を負担したことから始まる	
目的・内容 ②	自然環境の保護・保全	9
国・県の補助の有無	白浜大浜の砂防柵設置については資材の現物支給あり	
公益性の所在 ①	道路への飛砂を減少させる目的があり、公益上役割は大きい	10
市が補助すべき理由 ②	飛砂防止、自然環境の保護・保全、安全対策上必要である	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	資材費、機械借上げ料	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	415千円(長田50千円、原田70千円、外浦295千円) ※外浦については県よりの資材提供なく、地元負担を強いられている。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	砂の飛散防止、自然環境の保護 ※長田区はH23から飛散がなかったため、事業実施を見送っている。	10
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響	飛砂防止に大きな影響が出る。特に、白浜大浜に沿う国道135号への影響は計り知れない。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	9.5	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	-----	------	----	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2110	補助金名 まちおこしカジキサポートクラブ補助金		
根拠法		任意団体	
交付要綱等名称		下田市負担金補助及交付金に関する規則	
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人を楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	まちおこしカジキサポートクラブ	事務局	まちおこしサポートクラブ
補助金の性質	<input checked="" type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	1,000,000	0	1,000,000
29	700,000	0	700,000
28	700,000	0	700,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	700,000	0	700,000
27	700,000	0	700,000
26	700,000	0	700,000
25	700,000	0	700,000
24	700,000	0	700,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	「H20国際カジキ釣り30回記念大会」より、注目度や事業規模等も大きくなっていることから、平成20年度から本補助が開始された。		
目的・内容	②	「国際カジキ釣り大会」は世界最大級のカジキ釣り大会であり、下田の夏のイベントとして定着している。H29は39回目の大会となる。事業の成功を収めることにより、十分なPR効果が期待できることから補助を行うものである。カジキ釣り大会とマリンフェスタを同時開催している。平成30年度は第40回大会となるため、事業費を拡大し、記念事業としたい。	10
国・県の補助の有無	無し		
公益性の所在	①	カジキサポートクラブは本大会の市民主導によるサポート団体であり、官民協働事業の一翼を担っている	10
市が補助すべき理由	②	本補助金は経済波及効果が大きく事業を盛大かつ円滑に実施するため必要である。	10
代替手段との比較	なし		
補助金の主な使途	③	運営費	10
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	第40回の記念大会となることからH30年度は増額とする。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	問題無し	10
成果・費用対効果	④	年々参加艇が増加しており、大会規模が大きくなっている。 参加艇数 H20(30回記念)111艇 H21 92艇 H22 102艇 H23 93艇 H24 93艇 H25 101艇	10
同一団体への他の補助金の有無			
廃止の見込み、廃止の影響	国際カジキ釣り大会は他市町からの誘致オファーがあり補助金を廃止すると、大会が他市町へ移る可能性が大である。カジキ釣り大会と同時開催している夏のイベントとして定着しているマリンフェスタの開催も危ぶまれる。		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略課		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	2119
No 2119	補助金名 フリーダイビング下田大会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系		
	基本目標		
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者		事務局	
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input checked="" type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度	27	補助終期設定	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	100,000	0	100,000
29	100,000	0	100,000
28	100,000	0	100,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	0	0	0
27	133,640	0	133,640
26	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	日本フリーダイビングの第一人者であり須崎在住の松元恵さんが代表を務めるApnea Academy Asia がマリンスポーツのメッカでもある下田市で大会を開催し、体験型レジャーにもつながる同スポーツを軸とした交流を促進する。	
目的・内容	② 下田港内での潜水競技、敷根プールで行うプール内潜水競技	7
国・県の補助の有無	なし	
公益性の所在	① 日本フリーダイビングの普及とそれを軸とした交流促進	7
市が補助すべき理由	② 世界一の海づくりプロジェクトを推進しており、全国大会規模のマリンスポーツ大会については積極的に誘致していきたい。	8
代替手段との比較		
補助金の主な使途	③ 敷根プール等利用料	8
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 敷根プール等利用料金相当分の助成	0
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	
成果・費用対効果	④ 海洋競技は天候により中止、プール競技のみ実施となった。	4
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響		

○評価点

①公益性	7	②必要性	7.5	③適格性		④効果	4
------	---	------	-----	------	--	-----	---

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	
No 2120	補助金名 フラワー都市交流協議会下田市総会実行委員会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系	1-1-2 景観形成	
	基本目標	下田まち遺産を守り活用し、市民が愛着と誇りを持ち、良好な景観が活かされる、魅力あるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者		事務局 観光交流課	
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input checked="" type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度 H 29	補助終期設定 H 30	補助率 100 %	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	0	0	0
29	0	0	0
28	150,000	0	150,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	0	0	0
27	150,000	0	150,000
26	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	花をまちづくりのシンボルとしている全国の9都市により構成されている協議会。持ち回りで総会を開催している。		
目的・内容	②	花をテーマとしたまちづくりを目指す都市(フラワー都市)の相互交流を通じて、加盟都市の観光等各種産業、経済の振興と教育文化の振興など魅力ある地域づくりを図ること。	
国・県の補助の有無			
公益性の所在	①	市が実行委員会形式で実施するもの。花を活かした都市間の交流。	10
市が補助すべき理由	②	市が実行委員会形式で実施するもの。	
代替手段との比較			
補助金の主な使途	③	平成30年6月のあじさい祭りに合わせて開催する、フラワー都市交流下田市総会の実施に係る経費。	
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	他開催市及び前回開催(H21.)の実績による。	0
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③		
成果・費用対効果	④	全国の8都市から300名程度が出席。日程は6/17(土)~18日を予定。フラワー総会、わがまち紹介、フラワーパーティー、ツアー等を実施する。	10
同一団体への他の補助金の有無			
廃止の見込み、廃止の影響	各加盟市町が毎年持ち回りで実施しており、加盟している以上総会開催の義務が有る。		

○評価点

①公益性	10	②必要性		③適格性		④効果	10
------	----	------	--	------	--	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	
No 2122	補助金名 下田市観光協会補助金(外国人観光案内分)		
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系		
	基本目標		
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者		事務局	
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input checked="" type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度 28	補助終期設定	補助率 100%	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	2,400,000	0	2,400,000
29	2,600,000	0	2,600,000
28	2,600,000	0	2,600,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	2,600,000	0	2,600,000
27	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	インバウンド需要等の増加による	
目的・内容 ②	観光協会駅前案内所に英語対応スタッフ1名を配置	10
国・県の補助の有無		
公益性の所在 ①	現代において必要最低限	10
市が補助すべき理由 ②	平成28年度より委託費から補助金へ変更。	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	英語対応スタッフ1名の人件費等	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	人件費等相当額	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③		
成果・費用対効果 ④	必要最低限で将来的には英語だけでなく、他の言語対応スタッフ配置も必要である。	10
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響	現状において必需であり廃止はあり得ない。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性		④効果	10
------	----	------	----	------	--	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2123	補助金名 田牛観光協会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系		
	基本目標		
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者		事務局	
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度	28	補助終期設定	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	400,000	0	400,000
29	350,000	0	350,000
28	350,000	0	350,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	350,000	0	350,000
27	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	龍宮窟が市内屈指の名所となり観光客が増加したことに伴う、駐車場の確保、誘導等地元負担が問題となったことから、負担軽減のため補助することとなった。	
目的・内容	② 駐車場誘導等の一定人工分の補助(夏期対期間を除く)	10
国・県の補助の有無		
公益性の所在	① 近年観光客が急増している田牛龍宮窟周辺の観光客対策として、地元観光協会、地元区が協力して実施。 ※夏期については、夏期対で対応している。	10
市が補助すべき理由	② 名所として有名になったものの駐車場等も少なく、受け入れ態勢が不十分であったことから、地元区に多大な負担が生じてしまった。一方、負担ばかし増え地元に対しての利益還元もほとんどない状況にあったことから地元負担軽減のため補助を開始した。	10
代替手段との比較		
補助金の主な用途	③ 駐車場誘導等の人工	8
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 観光客の増加により稼働日が増となることから合わせてH30年度予算額を増とする。 夏期(7・8月)を除く祝祭日分の人工 @4000×100日 ※夏期については夏期対予算により対応	8
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	
成果・費用対効果	④ 以前より地域等より課題とされており、大作は必要不可欠と考える。	
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性		④効果	
------	----	------	----	------	--	-----	--

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2124	補助金名 下田市観光協会補助金(OTA等広報分)		
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3 観光	
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者		事務局	
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input checked="" type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度	29	補助終期設定	補助率 100% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	3,000,000	0	3,000,000
29	2,000,000	0	2,000,000
28	0	0	0

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	0	0	0
27	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	旅行業界におけるOTA(オンライン・トラベル・エージェント)の情報発信、特にインバウンド、個人旅行における重要性が高まっていることから観光宣伝として実施するもの。	
目的・内容	② 雑誌、メールマガジン、インターネット上で下田のアーリー・レイトサマー用の観光宣伝を実施する。、※OTAとは店舗を持って営業活動を行っている従来型の旅行会社(リアルエージェント)に対し、インターネット上だけで取引を行う旅行会社。	10
国・県の補助の有無	なし	
公益性の所在	① 下田の夏の観光宣伝を実施するもので、観光を主要産業とする下田市にとっては、公共性・重要性は高い。	10
市が補助すべき理由	② 特定施設・店舗等の宣伝でなく、下田市の海、自然、イベント等の観光資源を情報発信するものであるため。	10
代替手段との比較	情報発信は様々な多くの手法により広報することが重要と考えており、その意味において、“代替”と言った観点は無い。	
補助金の主な使途	③ OTAに対する情報発信	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ H30年度はアーリー・レイトサマーに加え、春向けの広報も実施(黒船、あじさい)したい。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	
成果・費用対効果	④ H29が実施初年度で「じゃらん」によるアーリー・レイトの情報発信を実施中。	
同一団体への他の補助金の有無	有り	
廃止の見込み、廃止の影響	今後、重要性は高まっており、より強化する必要があると考える。 今の時代に有って廃止はあり得ないと考える。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性		④効果	
------	----	------	----	------	--	-----	--

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2125	補助金名 下田市観光協会補助金(ビジットジャパン出展分)		
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者		事務局	
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input checked="" type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度	29	補助終期設定	補助率 100% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	300,000	0	300,000
29	280,000	0	280,000
28			

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	280,000	0	280,000
27			

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	観光におけるインバウンド需要の増加による	
目的・内容	② 日本観光局(JNTO)が東京ビックサイトにおいて実施する日本最大のインバウンド商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート」に下田市ブースを出展。出展料、旅費等を補助。	10
国・県の補助の有無	なし	
公益性の所在	① 下田市全体の観光宣伝を実施するもので、観光を主要産業とする本市にとって、公益性は高い。	10
市が補助すべき理由	② 個別店舗等でなく、下田市の観光宣伝を実施することから、市費の補助によることが望ましい。	10
代替手段との比較	日本最大のインバウンド商談会であり、出展するには一番の効果があると思われる。情報発信・広報はより多くの手法により行うことが重要である。	
補助金の主な使途	③ 出展料、参加者旅費(3名2泊)、送料等。※参加者は主に英語による対応となる。	10
当初目的の達成度	9/21~22(2泊3日:3名)で出席予定	
予算要求額の算出根拠・方法	③ 出展に係る直接費用全額を補助するもの。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	
成果・費用対効果	④ 補助初年度。同商談会は昨年度実績では世界28カ国のバイヤー・メディア376社、日本全国のセラール450社が一堂に会し、インバウンド商談会やファミトリップ等のプログラムを展開された。	
同一団体への他の補助金の有無	有り	
廃止の見込み、廃止の影響		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性		④効果	
------	----	------	----	------	--	-----	--

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係	記載者職・氏名 大原清志
-------------------	--------------

新規・継続	継続	予算事業コード
No 2126	補助金名 下田水仙ツーデーマーチ補助金	
根拠法		
交付要綱等名称		
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3 観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。
業務作戦書の位置付け	戦略の核	
	2桁コード	
補助対象者	事務局	観光交流課
補助金の性質	<input checked="" type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助	
補助開始年度	H 27	補助率 100% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	500,000	0	500,000
29	400,000	0	400,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	400,000	0	400,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	今回で通算20回目を数えるウォーキングイベント。多くのウォーキングリーグの認定大会であり全国から多くのウォーカーが参加する。	
目的・内容	② ウォーキングイベントを活用し来遊参加者と地域住民の交流活性、地域住民の健康維持・増進、観光PRの拡大に寄与する。	10
国・県の補助の有無		
公益性の所在	① 実行委員会形式により市観光交流課が実施。	10
市が補助すべき理由	② 実行委員会形式により市観光交流課が実施している。	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途	③ 運営費	
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 参加者負担金等を除く全額を補助。大会実施予算1,244千円中の400千円が市補助金。	0
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	
成果・費用対効果	④ 下田市を代表する季節の花「水仙」を通じて、全国へ向けて「暖かな伊豆の早春」をPRし、交流人口増加を図った。2日間の延参加者は730人、一般参加者551名の内450人が県外参加者で北海道から鹿児島までの幅広い参加となった。参加者数はH28年度に対し14%増となった。	10
同一団体への他の補助金の有無	なし	
廃止の見込み、廃止の影響		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性		④効果	10
------	----	------	----	------	--	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係	記載者職・氏名 大原清志
-------------------	--------------

新規・継続	新規	予算事業コード
No 2127	補助金名	アフターサマープロジェクト補助金
根拠法		
交付要綱等名称		
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3 観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。
業務作戦書の位置付け	戦略の核	
	2桁コード	
補助対象者	アフターサマープロジェクト実行委員会	事務局 下田商工会議所
補助金の性質	<input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助	
補助開始年度	H 30	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	1,000,000	0	1,000,000
29	0	0	0

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	サマーフェスタの後継プロジェクトの一つとして「観光」「竹」「まちおこし」にフォーカスしたイベントを行うことにより夏の終わり(9月～10月)の観光動員の底上げを図る。	
目的・内容	② ペリーロード及び旧町内に竹灯りオブジェ(各種)の設営～点灯による街路装飾の他、飲食店において竹を活用したカスタムメニューの提供を実施。	
国・県の補助の有無		
公益性の所在	① 盛夏に比べて観光動員が伸び悩む時期に実施することで、観光動員を活性化するため、観光を主産業とする本市にとって公益性は高い。	10
市が補助すべき理由	② 個別店舗でなく、街中全体を装飾するもので、直接イベントに利用する物品購入費用に対し、一定割合を補助するもの。まちおこし企画であり、まちを活性化する取組にたいしては、市としても協力することが必要となる。	8
代替手段との比較		
補助金の主な使途	③ 直接イベントに使用する、キャンドル、ガラス瓶の購入費用の一部を補助。	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法	③ 竹灯りオブジェに利用する、キャンドル、ガラス瓶の購入費用の一部(60%ほど)を補助。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	
成果・費用対効果	④ H30年度より実施。	7
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響		

○評価点

①公益性	10	②必要性		③適格性		④効果	7
------	----	------	--	------	--	-----	---

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名	
新規・継続	新規	予算事業コード	
No 2128	補助金名 下田市観光協会補助金(ビーチライブカメラ設置分)		
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系		
	基本目標		
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者		事務局	
補助金の性質 <input type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input checked="" type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助			
補助開始年度 H 30	補助終期設定	補助率 100 %	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	313,000	4,000,000	4,313,000
29	0	0	0

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	H29年夏期の記録的連続雨天(関東地方)の影響により、関東地方の海水浴客数が大幅減となった。当市においても、同期間における雨は4日間であるにもかかわらず大きな影響を受けてしまった。天気予報と実際のずれも多く、機械ロスを減らす策としてライブ部カメラを設置し今の下田をライブ配信する。		
目的・内容	②	年間を通した下田の海の魅力発信により観光客を呼び込む。	10
国・県の補助の有無			
公益性の所在	①	市が直接実施してもよい事業であるが、今後の展開(スポンサーの獲得等)の可能性を考慮し、観光協会により実施することとした。	10
市が補助すべき理由	②	市の施策として、リアルタイムに下田の海をPRする。	10
代替手段との比較	紙パンフレットだけでは伝えきれない、今の海的美しさを伝える。		
補助金の主な使途	③	市内4カ所(白浜大浜、白浜中央、外浦、田牛)のビーチに定点ライブカメラを設置しユーチューブにより動画配信を実施。市内・市外の10拠点に放映用タブレットを設置。	10
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	・白浜中央、白浜大浜、外浦については通年設置@858千円×3カ所 ・田牛については7月以降を予定 @778千円×1カ所 ・タブレット設置 @96.1千円×10カ所 ※ランニングコストを含む。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③		
成果・費用対効果	④	7・8月最盛期の機械ロスを防ぎ、さらに通年で海の魅力発信することで観光交流客数の増を目指す。当市の海水浴客は60万人であるが、数%の集客の増減であっても、その経済効果は莫大である。	10
同一団体への他の補助金の有無			
廃止の見込み、廃止の影響			

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性		④効果	10
------	----	------	----	------	--	-----	----

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係	記載者職・氏名 大原清志
-------------------	--------------

新規・継続	新規	予算事業コード
No 2129	補助金名 東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進協議会補助金	
根拠法		
交付要綱等名称		
総合計画の位置付け	施策体系 2-1-3 スポーツ	
	基本目標	市民がいつでも気軽にスポーツを楽しむことができるまちを目指します。
業務作戦書の位置付け	戦略の核	
	2桁コード	
補助対象者	事務局 観光交流課	
補助金の性質	<input type="radio"/> 運営費的補助 <input type="radio"/> 活動費的補助 <input checked="" type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助	
補助開始年度 H 30	補助終期設定 H 32	補助率 100% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	2,000,000	0	2,000,000
29	0	0	0

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	0	0	0

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	平成29年12月11日にアメリカを対象国として、2020東京オリンピックパラリンピック・ホストタウンとして登録。	
目的・内容 ②	2020年東京オリンピックパラリンピックの開催に向け、大会に参加する選手、大会参加国の関係者、日本人のオリンピック選手とスポーツの振興、教育文化の向上及び共生社会の実現を図る。	10
国・県の補助の有無	特別交付税1/2	
公益性の所在 ①	市(観光交流課)が実行委員会形式により実施するもの。	10
市が補助すべき理由 ②	市(観光交流課)が実行委員会形式により実施するもの。	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	USAサーフィンチームの事前合宿・交流事業、日本人オリンピック等の講演会等	
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③		0
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③		
成果・費用対効果 ④	下田市における2020東京オリンピックのレガシーの創出。	
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性		④効果	
------	----	------	----	------	--	-----	--

平成29年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	新規	予算事業コード	
No 2130	補助金名	JPSPAジャパンプロサーフィンツアー下田大会補助金	
根拠法			
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	(一社)日本プロサーフィン連盟	事務局	(一社)日本プロサーフィン連盟
補助金の性質	<input type="radio"/> 運営費的補助 <input checked="" type="radio"/> 活動費的補助 <input type="radio"/> 施策的補助 <input type="radio"/> 奨励的補助		
補助開始年度	H 30	補助終期設定	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
30	400,000		
29	0		

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
28	0		

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	日本最高峰のプロサーフィンツアーを下田市で開催し、美しい海、サーフィンのメッカとなる用広くPRするため。		
目的・内容	②	7/6(金)~8(日)白浜大浜海岸で実施されるJPSPAプロサーフィンツアー「伊豆下田CHAMPION PRO」実施。	
国・県の補助の有無			
公益性の所在	①	年に8回実施されるプロサーフィンツアーを下田市で実施することは、世界一の海づくり事業を実施し、マリンスポーツ・ツーリズムを推進する下田市にとって絶好のPRとなるため。	
市が補助すべき理由	②	マリンスポーツのメッカづくり。	10
代替手段との比較			
補助金の主な用途	③	運営費	10
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	企業スポンサー料相当額の約20%	0
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③		
成果・費用対効果	④	下田の海を広くPRする。	
同一団体への他の補助金の有無		なし	
廃止の見込み、廃止の影響			

○評価点

①公益性		②必要性		③適格性		④効果	
------	--	------	--	------	--	-----	--